



物流と人のハーモニー
TRANCY

第 104 期 中間報告書

2017年4月1日 ▶ 2017年9月30日



日本トランスシティ株式会社

証券コード：9310



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループの第104期中間期（2017年4月1日から2017年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社グループでは、2017年度を初年度とする中期経営計画を策定し、品質・安全の向上、新たな価値の創造、事業基盤の強化、お客さま満足・従業員満足の追求に取り組み、『TRANCYのロジスティクス』の確立に向け、事業活動に取り組んでおります。

今後とも当社グループ一丸となり、お客さまに最高のサービスを提供し、社業の発展と経営の強化に邁進することにより、株主の皆さまのご期待に応えてまいり所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

取締役社長

小川 謙

人と人を結び、都市と都市をつなぎ、新しい夢と文化を育む 日本トランスシティグループ

企業理念

事業領域

- グローバルな視点から、システマティックな物流と新たな活動分野を創造する

社会的役割

- 地域とともに生き、広く社会の発展に貢献する

企業文化・風土

- 人間性豊かな、高感度・行動型集団を目指す

次代を目指すトータルロジスティクスサービス

国内倉庫管理システムや国際情報システム等を活用して海外から国内までの一貫したサプライチェーンの可視化を実現します。

お客様の商品の特性に合わせた保管荷役と在庫管理情報の提供等を行うとともに、お客様に最適な物流戦略拠点を提供します。

検品、ラベル貼付など、多様な物流加工サービスを提供し、お客様のSCMを総合的にサポートします。



■ 海外ネットワーク

ドイツ

デュッセルドルフ

チェコ

プラハ

アメリカ

エルパソ、メアリスビル、シンシナティ、レキシントン、サンアントニオ

メキシコ

アグアスカリエンテス

中国

大連、青島、上海、深圳、香港、惠州

フィリピン

マニラ

ベトナム

ハノイ、ホーチミン、ドンナイ

カンボジア

プノンペン

ミャンマー

ヤンゴン

タイ

バンコク、レムチャバン

マレーシア

クアラルンプール、クアタム

インドネシア

ジャカルタ、スラバヤ

株主の皆さまへ

営業概況（連結）

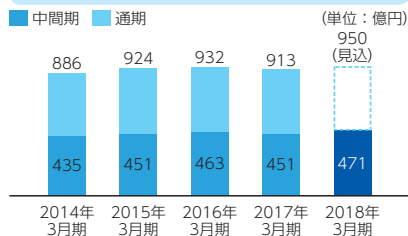
当中間期における当社グループの営業概況につきましては、総合物流業において、国内の消費財の好調な荷動きおよび生産財の回復基調を背景に倉庫業では、回転率が伸び、期中平均保管残高は前年同期に比べ減少しましたが、入出庫にかかる取扱量ならびに物流加工業務の取扱量は増加しました。港湾運送業では、輸出自動車の取扱量が前年同期に比べ減少しましたが、四日市港における海上コンテナや輸入原料の取扱量は増加しました。陸上運送業では、鉄道輸送の取扱量は前年同期に比べ減少しましたが、主力のトラック輸送ならびにバルクコンテナ輸送の取扱量は増加しました。国際複合輸送業では、海上輸送における輸入の取扱量が復調しました。

その他の事業につきましては、依然として厳しい環境下ではありましたが、業務の効率化や収支改善に努めました。

以上の結果、当中間期の連結売上高は、倉庫、港湾運送および陸上運送の取扱いが好調に推移したことなどから、前年同期比4.5%増の471億8千万円となりました。連結経常利益は、不動産の取得に伴う租税公課の計上ならびに新規拠点の稼動に伴う一時費用および減価償却費の増加により、前年同期比8.0%減の14億2千3百万円となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、前期にありました固定資産処分益ならびに関係会社清算益が当期はないことから、前年同期比60.8%減の9億8千3百万円となりました。

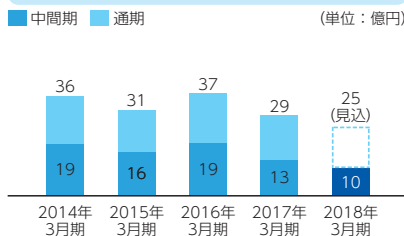
■ 売上高

471億円 (前年同期比4.5%増)



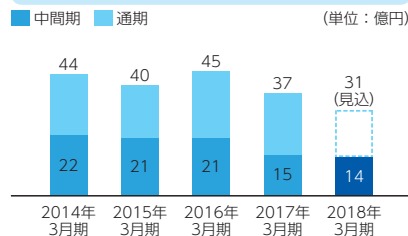
■ 営業利益

10億円 (前年同期比22.5%減)



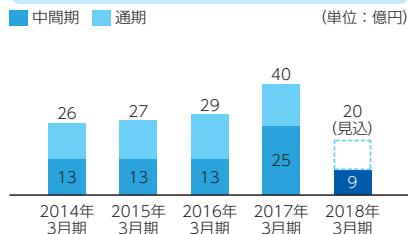
■ 経常利益

14億円 (前年同期比8.0%減)

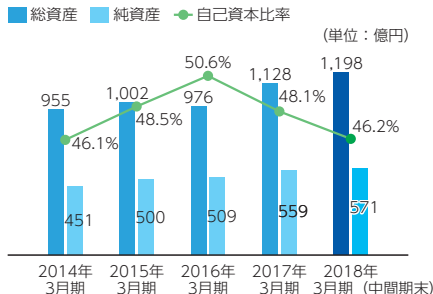


■ 親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

9億円 (前年同期比60.8%減)



■ 総資産・純資産・自己資本比率



■ 通期予想

売上高	950億円
営業利益	25億円
経常利益	31億円
親会社株主に帰属する当期純利益	20億円

今後の課題

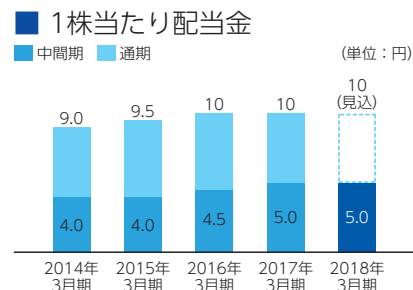
当社グループでは、本年度を初年度とする「中期経営計画」に基づき、期首に策定したアクションプランを着実に実現してまいります。具体的には、国内ロジスティクス事業においては、本年1月に増設した枚方営業所（大阪府枚方市）、本年5月に竣工した霞北埠頭流通センター（三重県四日市市）ならびに本年9月に竣工した幸手物流センター（埼玉県幸手市）の稼働率を向上させ、売上・利益拡大を図ってまいります。また、グローバルロジスティクス事業においてはアジアおよび北中米域内における物流ネットワークの拡充と新規事業の拡大を行ってまいります。さらに、グループ経営基盤の強化策として、4つの現場（営業・事務・作業・輸送）における物流品質・安全文化を確立してまいります。

配当について

当社は、安定的な配当を基本とし、今後の経営環境の変化を踏まえ、財務体質の強化にも配慮しつつ、長期的・総合的な視野に基づく配当を実施したいと考えております。

第104期中間配当につきましては、業績を勘案いたしまして、1株につき5円とさせていただきます。

今後も経営環境等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施してまいります。



日本トランスシティグループ 中期経営計画

Trancy Innovation 2019 —革新—

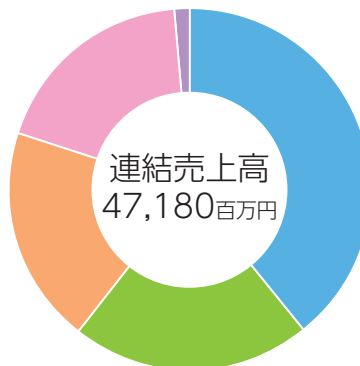
グローバルな領域で、お客さま満足、従業員満足を追求する集団となり、時代を先取りしたスピード感で物流品質・安全の向上と新たな価値・事業基盤の創造により、『Trancyのロジスティクス』を確立する

経営戦略

- 国内ロジスティクス事業の強化
- 国内外におけるグループ経営基盤の強化
- グローバルロジスティクス事業展開の加速
- グループCSR経営の推進

セグメント別営業概況

倉庫業	39.2%
港湾運送業	21.6%
陸上運送業	19.4%
国際複合輸送業・その他	18.6%
その他の事業	1.2%



倉庫業

売上高 **185**億円

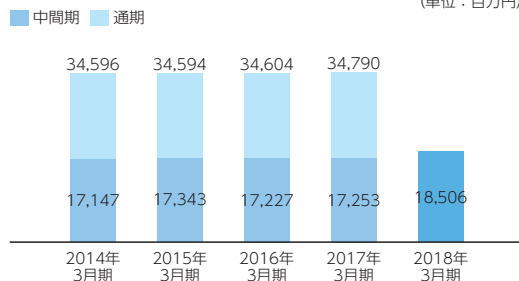
当部門におきましては、期中平均保管残高は前年同期比1.5%の減少となりましたが、新拠点の稼働に伴い、期中貨物入出庫トン数につきましては前年同期比8.0%増の376万トンとなり、保管貨物回転率は68.4%（前年同期62.4%）と上昇し、物流加工業務の取扱量も前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比7.3%増の185億6百万円の計上となりました。



売上高の推移

(単位：百万円)



港湾運送業

売上高 **102**億円

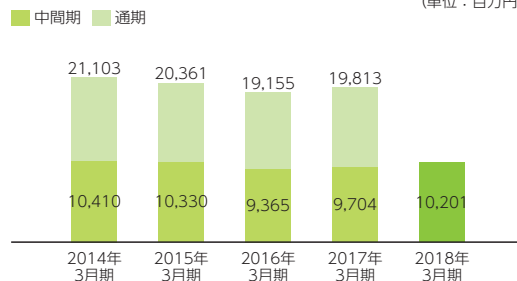
当部門におきましては、四日市港における海上コンテナの取扱量は前年同期比7.9%増の11万2千本（20フィート換算）となり、輸入原料の取扱量や国内自動車の取扱量も増加するなど、全般的に好調に推移しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比5.1%増の102億1百万円の計上となりました。



売上高の推移

(単位：百万円)



陸上運送業

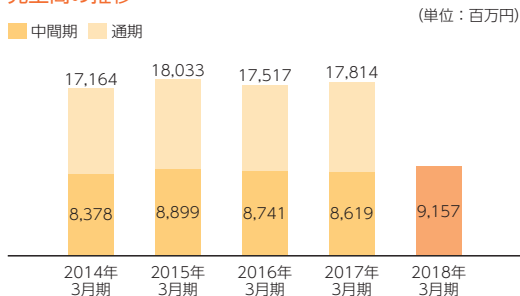
売上高 **91** 億円

当部門におきましては、鉄道輸送の取扱量は前年同期比6.3%の減少となりましたが、主力のトラック輸送ならびにバルクコンテナ輸送の取扱量は前年同期に比べ増加しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比6.2%増の91億5千7百万円の計上となりました。



売上高の推移



国際複合輸送業・その他

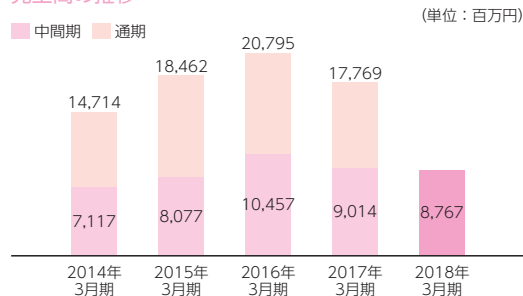
売上高 **87** 億円

当部門におきましては、海上輸送における輸入の取扱量は前年同期に比べ増加したものの、輸出の取扱量は減少しました。

以上の結果、当部門の売上高は、前年同期比2.7%減の87億6千7百万円の計上となりました。



売上高の推移

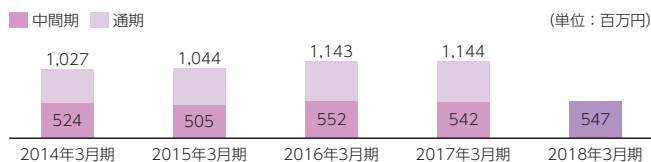


その他の事業

売上高 **5** 億円

その他の事業におきましては、売上高は、前年同期比0.9%増の5億4千7百万円となりました。

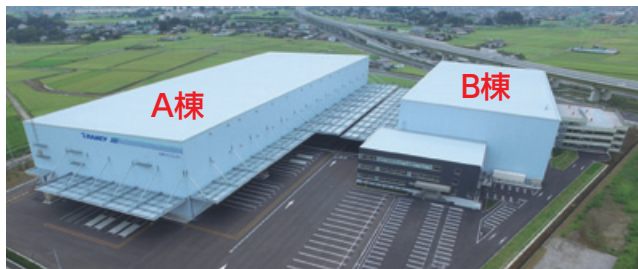
売上高の推移



特集 幸手物流センター稼働

当社では、2016年4月より埼玉県幸手市において物流センターの建設を進めてまいりましたが、2017年4月にA棟、9月にB棟がそれぞれ竣工し、本格稼働いたしました。

今回は、当社最大の保管面積を有する幸手物流センターをご紹介します。



<施設概要>

所在地 埼玉県幸手市神扇721-1 (圏央道 幸手IC隣接)
敷地面積 55,700㎡ (16,849坪)
建物構造 鉄骨造+鉄筋コンクリート造/耐火建築物

<主な設備>

ピースソーター (自動仕分機)、オリコン積付機、
垂直搬送機、無人搬送機、自家発電設備、LED照明 等

<倉庫面積> 65,207㎡ (19,800坪)

<倉庫設備>

垂直搬送機 : 14台 人荷用エレベーター : 2台
ドックレバラー : 13台 大庇 : A棟20m、B棟23m

*ピースソーター (自動仕分機)

ピース単位の商品を店舗別に仕分ける作業を自動化する装置。

*オリコン積付機

ピースソーター (自動仕分機) で仕分けされ、コンベアで流れてきたオリコン (折り畳み式コンテナ) を専用台車の上に自動で積み付けする装置。

*無人搬送機

床面に磁気テープや磁気棒を敷設し、それらが発する磁気により誘導されて無人走行する搬送用台車。

当センターは、最新システムや省力化設備を備え、消費財物流の多品種・小ロット・高頻度の在庫管理にも対応しており、入庫から保管・物流加工・輸配送に至るまで、お客さまの多様なニーズにお応えできる高規格の物流センターです。

圏央道の幸手IC至近に位置し、関東一円、東北地方までカバーする全国配送にも好立地のセンターであり、今後も、当センターを活用し更なる取扱いの拡大を図ってまいります。

CSRの取組み

当社グループのCSR活動につきまして、活動状況の一部をご紹介します。

品質・安全

－安全・安心なサービスの提供に取り組んでおります－

輸送における品質・安全向上

当社グループは、長年にわたりグループ会社および輸送協力会社とともに、輸送における品質、安全意識の向上に取り組んでおります。

国内においては、輸送協力会社とともに事故事例の検証や注意喚起を行うなど、安全意識の向上に努めております。運輸事業部中部運輸部四日市営業所では、安全優良事業所認定（Gマーク）を10年以上取得、3年間無事故継続を達成、継続しており、2016年10月には、その取組みが評価され、中部運輸局三重運輸支局長表彰を授与されました。



海外においては、当社グループのTrancy Logistics (Thailand) Co.,Ltd.が、リアルタイムな運行管理の実現に加え、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001を統合した管理体制を構築し、品質、環境、安全に配慮したサービスの提供に取り組んでおります。2016年12月には、タイ国運輸局より「優良運送事業者認定（Qマーク）」を取得し、輸送品質の更なる向上に努めております。

今後もグループ一体となって、安全な輸送を目指してまいります。

品質・安全向上への意識改革「T-PROJECT」始動

当社グループでは、労働災害や貨物事故をなくすため、品質・安全向上への意識改革「T-PROJECT」を開始しました。今後はこの取組みをグループ全体に浸透させ、お客さま、地域の皆さまに信頼され続ける企業として、更なる発展を目指してまいります。

<T-PROJECT 取組内容の概要>

- ①朝礼改革
- ②日々のKY（危険予知）活動の実施
- ③専門講師によるKYT（危険予知トレーニング）実践研修の受講
- ④現場作業における推奨基準の理解と各現場における作業方法の決定・遵守
- ⑤各地域に根ざした安全・品質向上活動の推進



中間連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前期末 2017年3月31日現在	当中間期末 2017年9月30日現在
資産の部		
流動資産	27,037	28,018
固定資産	85,800	91,866
有形固定資産	64,875	70,512
無形固定資産	1,421	1,460
投資その他の資産	19,503	19,893
資産合計	112,837	119,885
負債の部		
流動負債	20,932	23,199
固定負債	35,957	39,535
負債合計	56,889	62,735
純資産の部		
株主資本	52,758	53,563
資本金	8,428	8,428
資本剰余金	6,752	6,763
利益剰余金	38,846	39,559
自己株式	△ 1,269	△ 1,187
その他の包括利益累計額	1,472	1,800
非支配株主持分	1,716	1,786
純資産合計	55,948	57,149
負債純資産合計	112,837	119,885

中間連結損益計算書

単位：百万円

科目	前中間期 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	当中間期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
売上高	45,134	47,180
売上原価	40,793	43,083
売上総利益	4,340	4,096
販売費及び一般管理費	3,036	3,085
営業利益	1,304	1,010
営業外収益	396	512
営業外費用	154	99
経常利益	1,547	1,423
特別利益	2,134	105
特別損失	12	32
税金等調整前中間純利益	3,669	1,497
法人税等	1,090	451
中間純利益	2,578	1,045
非支配株主に帰属する中間純利益	65	62
親会社株主に帰属する中間純利益	2,512	983

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	前中間期 (2016年4月1日から 2016年9月30日まで)	当中間期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,517	507
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,605	△ 4,947
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,531	2,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 272	△ 61
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,828	△ 1,658
現金及び現金同等物の期首残高	10,659	10,746
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	94
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,830	9,181

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

幸手物流センター、霞北埠頭流通センター等の固定資産を取得したため、49億2千2百万円を支出しました。

会社の概要 (2017年9月30日現在)

社名	日本トランスシティ株式会社
英文社名	Japan Transcity Corporation
創業	1895年(明治28年)7月12日
設立	1942年(昭和17年)12月28日
資本金	8,428,059,616円
上場取引所	東京(第一部)、名古屋(第一部)
証券コード	9310
従業員数	2,278名(連結) 694名(単体)

事業目的

1. 倉庫業
2. 港湾運送業
3. 貨物自動車運送業
4. 貨物利用運送業及び代理業
5. 国際複合一貫輸送業及び代理業
6. 通関業
7. 医薬品、医薬部外品、化粧品及び医療機器の包装、表示及び保管業
8. 発電及び電気の供給に関する事業
9. 不動産の売買、賃貸借及び管理業
10. スポーツ施設の経営
11. 自動車整備業
12. その他

役員

<取締役・監査役>

代表取締役会長	小林 長久
代表取締役社長	小川 謙
社長執行役員	
取締役	平野 理
専務執行役員	
取締役	横山 修一
専務執行役員	
取締役	豊田 長康
取締役	武内 彦司
監査役(常勤)	伊藤 久弥
監査役(常勤)	舟橋 央光
監査役	綿貫 繁夫
監査役	永田 昭夫
監査役	油家 正

<執行役員>

左記以外の執行役員は、次のとおりです。

常務執行役員	山下 潤
常務執行役員	岡村 光喜
常務執行役員	安藤 仁
常務執行役員	小森 信弥
常務執行役員	後藤 孝富
執行役員	小菅 能正
執行役員	森 恒夫
執行役員	伊藤 豊久
執行役員	半田 一久

*取締役 豊田長康、武内彦司の両氏は社外取締役であります。

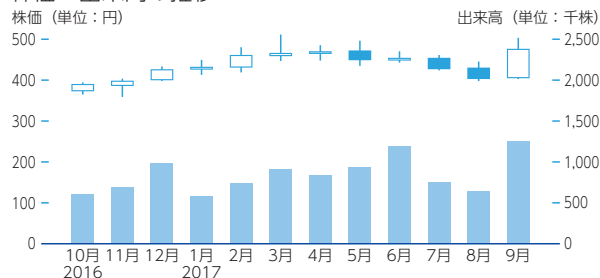
*監査役 舟橋央光、綿貫繁夫、永田昭夫、油家正の4氏は社外監査役であります。

株式の概要 (2017年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	240,000,000株
発行済株式の総数	67,142,417株
株主数	3,499名

株価・出来高の推移



大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
明治安田生命保険相互会社	4,000	6.2
日本トランスシティ社員持株会	3,645	5.7
蒼葉会	3,490	5.4
東京海上日動火災保険株式会社	3,014	4.7
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,843	4.4
株式会社百五銀行	2,683	4.2
株式会社三重銀行	2,668	4.2
株式会社みずほ銀行	1,848	2.9
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,501	2.3
セイノーホールディングス株式会社	1,472	2.3

*持株比率は、自己株式(3,025,761株)を控除して計算しております。

株式についてのご案内

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで 同連絡先* 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会 毎年6月 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
期末配当金受領 3月31日
株主確定日
中間配当金受領 9月30日
株主確定日
株主名簿管理人
特別口座の 三菱UFJ信託銀行株式会社
口座管理機関

公告の方法 電子公告により行います。
公告掲載URL <http://www.trancy.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

*株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関の事務拠点の移転に伴い、2017年8月14日付にて上記のとおり変更しております。

【ご注意】

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元株式数の変更のお知らせ

当社は株式売買等の利便性の向上を目的として、2018年4月1日をもって、当社単元株式数を1,000株から100株に変更することといたしました。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しておりますのでご活用ください。

<http://www.trancy.co.jp>

本社移転のお知らせ

本社機能の充実ならびに業務の効率化を図ることを目的として、2017年8月21日（月）に次のとおり本社を移転いたしました。

<新住所>
〒510-8651
三重県四日市市
霞二丁目1番地の1
四日市港ポートビル



物流と人のハーモニー

TRANCY
日本トランスシティ株式会社

〒510-8651
三重県四日市市霞二丁目1番地の1 四日市港ポートビル
TEL 059-363-5211
ホームページ <http://www.trancy.co.jp>

(見直しに関する記述等についてのご注意)

この報告書に記載されている業績予想や将来に関する記述等は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき合理的であると判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、様々な要因により見直しと大きく異なる可能性があります。

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

